

神戸大学

環境保全推進センター一報

第 21 号 2025 年度版



環境保全推進センター

2026 年 4 月

2025 年度

目次

1.巻頭言	3
2.エネルギー使用量調査・分析	4
3.排水水質管理	5
4.2024 年度 PRTR 制度による排出量・移動量調査結果	8
5.実験系廃棄物処理	9
6.センター主催シンポジウム	12
7.神戸大学環境サークル『えこふる』の活動	13
8.実験廃液処理に関する依頼講義について	14
9.環境管理ガイドブック	15
10.環境キャラバンおよび環境改善キャラバン	16
11.eco 活動見学会 2025	17
12.環境報告書の編集方針	18
13.全学共通授業科目「環境学入門 A」および「環境学入門 B」	19
14.「環境分析化学」の講義について	20
15.当センターの主な学界活動	21
16.2025 年度センター活動報告	25
17.大学等環境安全協議会参加報告	27
18.令和 7 年度環境保全推進センター各種委員名簿	29

巻頭言

環境保全推進センター長 内野 隆司

環境保全推進センターは、本学における環境保全活動全般を推進するための組織として、2014年に設置されました。化学薬品を扱う研究室の方々であれば、環境保全推進センターといえば、実験廃液回収の取りまとめを行っている部局であるという認識をお持ちと思います。しかし、センターは、学内の廃液処理のみならず、環境保全に関する学部教育、ドラフトや実験流し台（特定施設）の新設や廃棄に関する届け出業務、さらに、学内の電力消費削減などの省エネルギー活動の推進・評価など、様々な業務にも取り組んでいます。また、本年度は、例年行っていた全学報告会を、センター主催の公開シンポジウムという形で開催しました。「食品ロス」をテーマに、現状と課題を知り、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて考える機会として、外部講師3名の方々を招き、講演やパネルディスカッション、ポスター展示などを行いました。200名近い参加者があり、「食品ロス」に対して認識、行動を新たにする機会になったことと思います。

学内の教職員、学生の皆様は常に、安全に気を付けて日々教育・研究活動を行っておられると思います。しかし、実験は、廃液の処理が終わるまで完了しません。学内では、ここ数年、水性廃液・油性廃液を含め毎年50t近い廃液がセンターに持ち込まれています。膨大な廃液量ですが、幸いなことに。廃液の処理過程で重篤な事故は起きていません。ただ、残念ながら、廃液搬入時に廃液タンクが転倒し、廃液が漏出するという事例も皆無ではありません。廃液タンクの搬入時には、タンクを台車にベルトで固定するよう、注意喚起を行っていますが、まだまだ徹底されていないのが実情のようです。教員、学生の皆様には、是非趣旨を理解いただき、廃液タンク排出時のベルト固定を、重ねてお願いする次第です。

本センター報は、2025年度のセンターの活動内容をまとめたものであり、センターの活動の全貌が概観できる内容となっています。本センター報をご覧いただき、是非、センターの活動に対してご理解、ご支援いただくとともに、改善点などご意見、ご助言いただけましたら幸甚です。

エネルギー使用量調査・分析

環境企画部門長 高橋 一志

大学学内での化石燃料の使用量を正確に把握し、その省エネルギー化を進めることは、地球環境の保全へ貢献する大変重要な取り組みである。国内では、省エネルギーに係る法律として、「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律 (法律第 49 号)」(以下「省エネ法」という。)が施行されている。本学においても、省エネ法第 5 条の規定に定められた「事業者の判断の基準となるべき事項等」及び「神戸大学におけるエネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する規則」にもとづき、エネルギー使用量の調査・分析を実施している。本学では、六甲台地区 (六甲台第 2 キャンパス) 及び楠地区 (楠キャンパス) が、省エネ法上の管理指定工場等に該当する。

電気使用量 (2025 年 4 月から 2025 年 12 月までと、前年度の同時期のもの) を図 1 に示す。神戸大学全体の累計値を 2024 年度の累計値と比較すると、2025 年度の値は 0.2% 増加した。六甲台地区では 2.4% 増加、楠地区では 1.3% 減少した。月別にみると、6 月、7 月、8 月に昨年度より電気使用量が増加しており、特に 6 月と 7 月はそれぞれ前年比 6.7% 増、2.5% 増となっている。これは、空調機のガス式から電気式への更新に加え、例年と比較して梅雨が短く、高温期間が 6 月から 10 月までと長かったことなどが原因と考えられる。ただし、2019 年度の累計値との比較では、2025 年度の値は 0.6% の減少であり、長期的には、省エネに向けた活動による成果がみられていると考えられる。2024 年度、電気使用量の多い六甲台地区 (32%) と楠地区 (54%) で、大学全体の使用量の 86% を占めた。

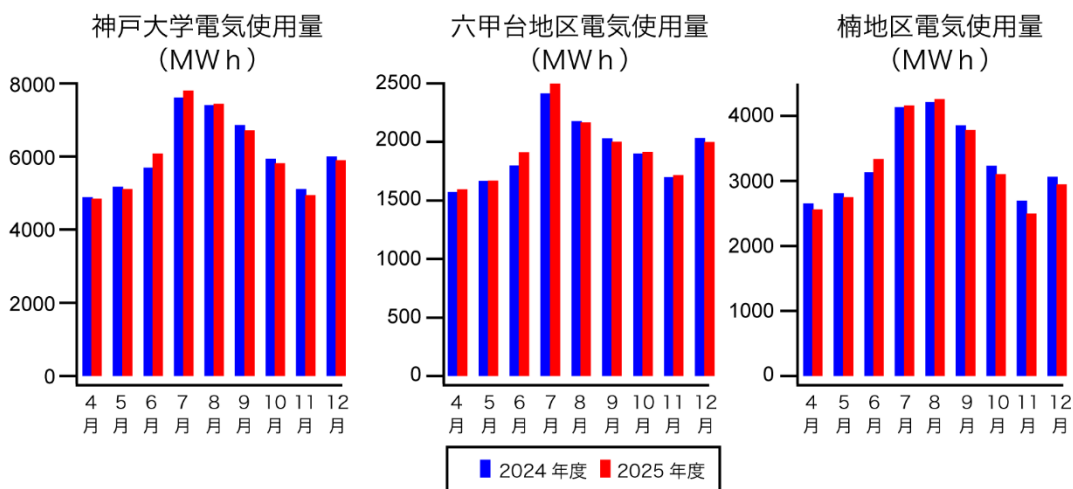


図 1. 大学全体と地区別の月別電気使用量

排水水質管理

技術専門職員 西川 大介

本学の排水の多くは神戸市の下水道に排出している。下水道法に規定される水質を遵守するため、排除基準が設けられる化学物質に対しては定期的に機器分析することで、水質管理を行っている。定期排水分析については計量証明が行われている業者に水質分析を委託し、また、環境保全推進センターにおいても保有する機器で分析を行い、相互確認および委託していない項目の分析を行った。加えて、各部局に設けられた排水槽の pH 値を常時モニタリングし、排水異常が生じないように注意喚起を行った。

1. 定期排水分析

【水質分析を行った項目とその区分】

区分	項目
人の健康に係る被害を生ずる恐れのある項目	ダイオキシン、カドミウム及びその化合物、シアン化合物、有機リン化合物、鉛及びその化合物、六価クロム及びその化合物、砒素及びその化合物、水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物、ポリ塩化ビフェニル (PCB)、チラム、シマジン、チオベンカルブ、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン、セレン及びその化合物、ほう素及びその化合物、ふっ素およびその化合物、1,4-ジオキサン
生活環境に係る被害を生ずる恐れのある項目	フェノール類、銅及びその化合物、亜鉛及びその化合物、鉄及びその化合物、マンガン及びその化合物、クロム及びその化合物
その他	水素イオン濃度 (pH)、沃素消費量、窒素含有量、リン含有量、トルエン、キシレン、トランス-1,2-ジクロロエチレン、クロホルム、1,2-ジクロロプロパン、ブロモジクロロメタン、トルエン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルム、1,4-ジクロロベンゼン

【学内採水箇所】

採水分析頻度	採水箇所
2回/月	工学部：2、自然科学：1、農学部：1、理学部1、発達科学部：1
1回/月	大学教育推進機構：1、楠地区：1、名谷地区：1、 ポートアイランド地区：6 (2025年度よりものづくり研究棟、メテックイノベーションセンターが追加)

【定期排水分析結果】

排水分析結果は全て排除基準値内で、良好だった。

排水中に含まれる有害物質の濃度が通常時よりやや高めに出た箇所が 1 件あったが、注意喚起および原因調査を行い、排水管理責任者を通して水質が適正に保たれるように依頼をした。時期によって有害物質の濃度が上昇する箇所もあり、注意しておく必要がある。

採水年月日	分析結果	備考
2025/4/1, 15	基準値内	
5/7, 20	基準値内	
6/3, 17	基準値内	
7/1, 15	基準値内	
8/5, 19	基準値内	
9/2, 16	基準値内	
10/7, 21	基準値内	
11/4, 18	基準値内	
12/2, 16	基準値内	
2026/1/6, 20	基準値内	
2/3, 17	基準値内	
3/3, 11	基準値内	

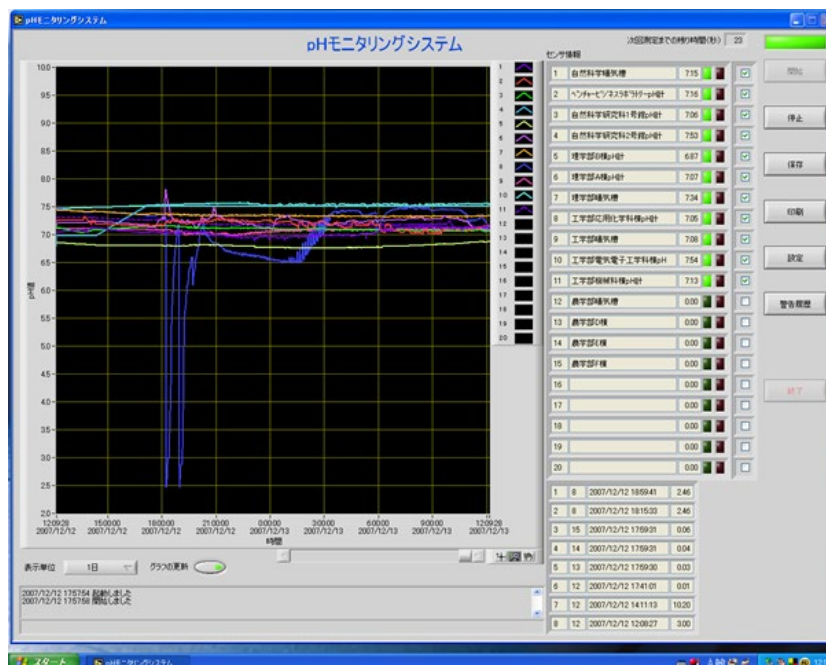
【神戸市建設局による立ち入り水質調査】

2025 年度では神戸市建設局による立ち入り水質調査が下記の通り計 4 回行われたが、いずれも問題はなかった。

立ち入り日	採水箇所
4/24、7/16、10/14、 2026/1/20	工学部南、自然科学北、 理学部曝気槽、農学部曝気槽

2. pHモニタリングシステム

本学では各部局に設けられた排水槽に pH 電極を設置し、pH 値を常時モニタリングできるようにしている。このシステムが正常に作動するように下記の通り、定期点検を実施した。実験排水の pH 値は学内排除基準の 5.5-8.5 に概ね収まっていたが、基準値を超過した箇所には排水管理責任者を通して注意喚起を行った。



点検頻度	点検内容
1回／2月	pH電極の校正、洗浄、消耗品の交換

2025年度は、メドテックイノベーションセンター、ものづくり研究棟での研究活動開始に伴い、排水管理を行うこととなった。これらの実験排水の pH 値も常時モニタリングできるように、pHモニタリングシステムを更新した。

2024 年度 PRTR 制度による排出量・移動量調査結果

技術専門職員 西川 大介

PRTR 制度は人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から排出される量を事業者が自ら把握して届出を行い、国がその量を集計・公表する制度である。

本学における 2024 年度の PRTR 対象物質排出量・移動量は、薬品管理システムを利用して算出した。

その結果、事業場内で排出量・移動量が多く届出対象となる化学物質は以下のようになり、神戸市および文部科学省に調査結果を報告した。

1) 楠地区

特定第一種・第一種指定化学物質		排出量・移動量 [kg]		
名称	番号	大気へ排出	外部委託	その他
キシレン	080	98	1,600	0.0

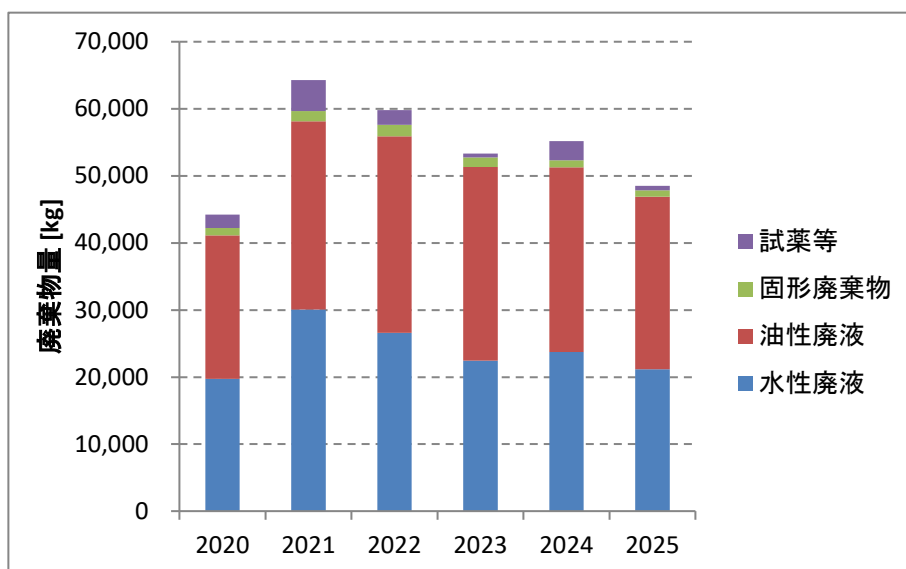
実験系廃棄物処理

技術専門職員 西川 大介

本学では産業廃棄物処理業者に実験系廃棄物の処理を委託している。2025年度は前年度と同様、ジャパンウェイスト株式会社に委託しており、当センターでは、廃棄物の運搬、中間処理、最終処分に至るまで適正に処理されているかをマニフェスト（廃棄物管理票）にて確認した。

2025年度の実験系廃棄物の排出量は約49tとなった。過去5年間の排出量の推移を見ると、コロナ禍前後で大きな変化はあったものの、近年は50t前後の排出量となっている。

次頁に各部局等における2025年度の廃液処理量の詳細を記載する。



本年度と過去5年間における実験系廃棄物排出量の推移

神戸大学で排出する廃棄物の種類と業者における処分方法

種類	本学での廃液分類および廃棄物の種類	処分方法
酸・アルカリ廃液	I-1、I-2、I-4、II-1、II-2	中和・還元・凝集沈殿
重金属等含有廃液	I-3、II-5~9、II-11	
水銀含有廃液	II-3	
シアン含有廃液	II-10	特殊処理
廃油	III-1、IV-1	焼却
有害溶媒廃液	II-12、IV-2~13	
固形廃棄物	疑似感染性廃棄物、シリカゲル等	

廃液タンク運搬時の転倒事故と再発防止について

本年度、学内における廃液回収業務中に、台車で運搬していた廃液タンクが転倒し、タンクが破損して、廃液が漏出する事例が3件発生した。いずれも人的被害はなかったものの、漏出した廃液の回収・清掃対応を要する事案となった。

3件とも、研究室等から回収した廃液タンクを台車に載せて屋外または建物間を移動中に発生したものである。スロープ通過時または方向転換時にタンクがバランスを崩して転倒し、容器の一部が破損した。原因として、台車への積載時に固定バンド等による固定が行われていなかったことが共通して確認された。

本事例の主因は、以下にあると考えられる。

- ・ 廃液タンクを台車へ固定していなかったこと
- ・ 慣れや過信、安全への認識不足

廃液は漏出した場合、作業者の安全確保のみならず、周辺環境への影響や二次的事故につながる可能性がある。

廃液タンクの転倒事故防止のため、複数の廃液タンクを台車に載せて運搬する際は必ず固定バンド等で台車に固定すること、研究室間で安全意識を共有することを徹底していただきたい。



センター主催シンポジウム

副センター長 堀家 匠平

開催日時：2025年11月4日（火）～11月5日（水） ＊5日はパネル展示のみ

会場：神戸大学 百年記念館（六甲ホール）

参加者：学内外約170名（ポスター展示協力を含む）

ゲスト講演者：

ジャーナリスト 井出留美先生（賞味期限のウソ～食品ロスはなぜ生まれるのか～）

(株)シューファルシ 武本佳弥先生（食品ロスの向こう側～循環型経済が変えるまちと未来～）

環境保全推進センターはこれまで、神戸大学の環境保全活動を広く学内外に知っていただくと共に、特別講演により環境に関する課題を共有し、さらなる環境活動を推進することを目的として、年1回の『全学報告会』を開催してきた。

環境問題に対する世界的な関心が高まる中、今年度は本報告会を『環境保全推進センター主催シンポジウム』に一新して開催した。今回は『食品ロスの真実～未来を変える選択～』と題して開催し、ゲスト講演、パネルディスカッションおよびパネル展示を実施した。

本学の環境担当理事である森山局長の挨拶を皮切りに、副センター長より環境保全推進センター直近1年の活動概要を紹介した後、学外の専門家にゲスト講演を行っていただいた。今回の新たな試みであるパネルディスカッションでは、経済学研究科 特命講師 小島理沙先生にファシリテーターを依頼し、『私たちはごみ問題にどう対応すべきか』と題して議論を行っていただいた。上記2名のゲスト講演者に加え、学生ボランティアサークルえこふるより1名、附属高校より生徒2名、神戸市環境局より1名がパネリストとして登壇し、食品ロス問題に関する活発な議論が交わされた。最後に、神戸大学環境報告書2025の表紙写真に応募・採用された学生さんを表彰した後、内野センター長が閉会の辞を述べた。

11月4日から5日かけて実施されたパネル展示では、環境企画・評価専門委員会、エネルギー専門委員会及び環境管理・教育専門委員会の活動報告のほか、大学院生による環境に関連した研究の紹介、本学および高校のボランティアサークルによる活動報告が実施された。

ご参加いただいた方々からは、ゲスト講演、パネルディスカッション、パネル展示のいずれも好評であり、「食品ロスの問題を自分事として捉える趣旨がよく反映されている」などのご感想を多数いただいた。有意義な時間を過ごしていただくことができたと考えている。

企画から運営までご協力いただいた関係各位に改めて感謝申し上げます。

神戸大学環境サークル『えこふる』の活動 ～環境意識を大学内外に広める～

神戸大学 環境サークル えこふる

■「えこふる」とは？

設立背景：2019年度に環境学入門講座を受講した学生有志が設立

設立目的：神戸大生や地域の人々の環境意識を高め、日常生活の中でもできることから始めてもらう

■今年度の活動内容

- ・「環境かるた」食品ロス ver.を用いた児童館での出前授業の実施
- ・経営学研究科研究員との連携事業：エシカル消費の促進に関する研究活動への参画
- ・神戸大学環境月間ポスターのデザイン作成
- ・サークル発表会開催 他

■2025年度の環境かるたを用いた出前授業

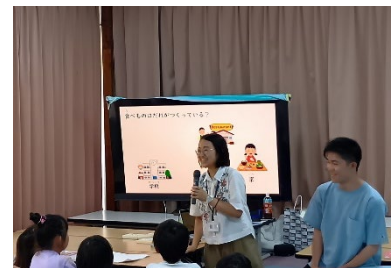
対象：神戸市内の小学1～6年生

内容：①食品ロスに関する授業

②食品ロスをテーマにした環境かるた

今年度の実施場所：

- ・神戸市立住之江児童館（於：7月28日）
- ・河原児童館（於：10月15日）
- ・六甲山の子会（於：11月11日）
- ・神戸市立本庄児童館（於：1月24日）



（出前授業の様子）

■2025年度神戸大学環境保全推進センターシンポジウム

内容：①ポスター発表

②パネルディスカッション参加



（パネルディスカッションの様子）

■「えこふる」の今後の活動

1. 出前授業：各児童館等と調整の上継続実施、食品ロス以外の環境問題をテーマにしたかるたの作成などその他テーマでの授業の展開
2. 新たなメンバーの募集
3. 環境報告書の執筆や神戸大学における環境保全活動への参画継続
4. E-learning コンテンツの新 ver.の制作

実験廃液処理に関する依頼講義について

助教 吉村 知里

環境保全推進センターでは、実験廃液処理に関する依頼講義を例年開講している。各部局からの依頼に応じ、教職員や学生を対象として、環境に配慮した実験および学内・学内周辺の環境保全への理解とそれらの実現を目的としている。他部局へ当センターの教員が訪問することで、教育効果を高めている。2025年度は、合計12回、総数約530名の学生に対して講義を行った。

また、報徳学園の理科クラブから依頼があり、実験廃液・廃棄物について講義を行った。

講義内容は概ね以下の通りである（部局の希望する講義時間によって若干内容は異なる）。

- ・神戸大学における実験排水管理（排水系統や排水に関する法令とその遵守）
- ・pHモニタリングシステムや中和曝気槽の仕組みとその設置経緯など
- ・神戸市における下水道への化学物質の排除基準
- ・神戸大学における実験廃液の処理方法
- ・神戸大学の実験廃液の回収分類
- ・環境管理ガイドブックに基づく環境保全の意義
- ・特定施設（実験系流し台、ドラフトチャンバー内の排水口）の届出について
- ・他大学を含めた事故事例など

実施した依頼講義一覧

実施日	開講部局	講義時間	受講人数
4/9（火）	大学教育推進機構（農学部）	30分	約40名
4/9（火）	工学部応用化学科	20分	約100名
4/10（水）	理学部化学科	90分	約35名
4/11（木）	大学教育推進機構（農学部）	30分	約20名
4/26（金）	理学部生物学科	45分	約35名
5/31（金）	医学部保健研究科修士課程	90分	約25名
10/1（火）	大学教育推進機構（理学部）	30分	約60名
10/1（火）	農学部応用機能生物科	90分	約45名
10/2（水）	大学教育推進機構（工学部）	30分	約60名
10/3（木）	大学教育推進機構（工学部）	30分	約50名
10/3（木）	農学部応用植物学科	90分	約30名
10/8（木）	農学部応用生命化学科	90分	約30名

環境管理ガイドブック

助教 吉村知里

毎年度新入生と新人教職員に神戸大学の環境憲章と環境管理の取組みおよびルールについて記した、『環境管理ガイドブック』（日本語版・英語版）を当センターホームページに随時更新して公開している。8 ページにまとめた冊子（図1）は、環境憲章、ごみの分別・回収、実験廃液・排水・廃棄物の取り扱い、実験廃液の貯留と分別、本学で回収可能な実験廃液の分類、下水道排除基準値（下水道法で定められた、下水道の水質汚染となる物質とその規制値）、省エネルギーの推進を記載している。

法改正などで内容が変更になる場合があるので、ホームページで随時『環境管理ガイドブック』を確認していただきたい。

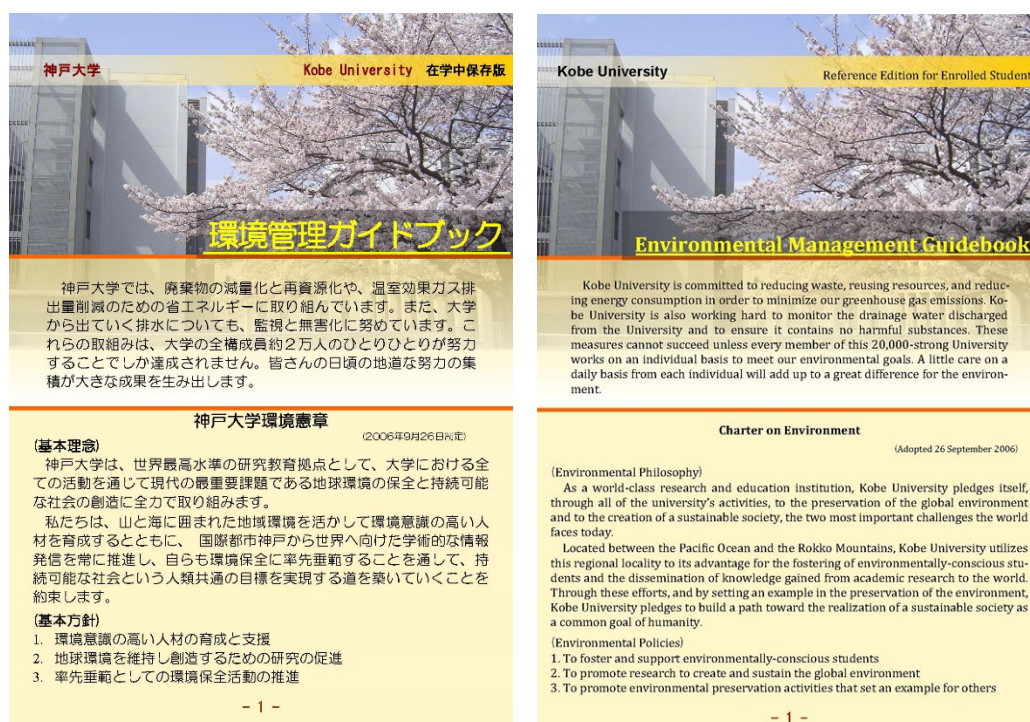


図1 環境管理ガイドブック 2025年10月版

環境キャラバンおよび環境改善キャラバン

環境企画部門長 高橋 一志

国際協力研究科・経営学研究科・経済学研究科（六甲台第1キャンパス）、理学研究科（六甲台第2キャンパス）、医学研究科（楠キャンパス）、保健学研究科（名谷キャンパス）と海事科学研究科（深江キャンパス）を対象に2025年度環境キャラバン・環境改善キャラバンを実施した（写真参照）。

環境キャラバン及び環境改善キャラバンは、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動の推進」、「エネルギーの使用の合理化に関する取り組み」及び「環境マネジメントサイクルの実施と継続」に係る活動である。キャンパスを視察し、教室など室内の温度管理に係る助言を行うこの取り組みは、エネルギー使用量を原単位で年平均1%以上低減する目標の達成と強く連動している。

2009年度から毎年実施している環境キャラバンでは、各キャンパスごとに事務室や教室、実験室、情報処理室等を対象に、机上位置での温度と照度の測定、ごみの分別状況の視察を通して、キャンパス内の環境やエネルギー使用状況をチェックしている。環境改善キャラバンは2011年度から継続して実施しており、環境キャラバンの結果を当該部局の担当者にお知らせするとともに、環境やエネルギー使用の改善のための意見交換を行っている。この一連の取り組みを通して、「室内温度の目標設定値が夏季28℃、冬季19℃であること」が認識され、屋外廃棄物保管場所の整備が進み、キャンパスの省エネルギー化と環境保全の促進に貢献している。



左上：室内照明の現地調査
右上：照明の間引き状況
左下：環境改善キャラバンの状況
右下：リサイクル分別状況

eco 活動見学会 2025

環境管理部門長 勝田 知尚

開催日時：2025年12月3日（木）

見学先：大栄環境(株)六甲リサイクルセンター（兵庫県神戸市東灘区向洋町東 2-2-2）

参加者：学生、教職員7名

eco 活動見学会は、学部生から大学院生まで、文系・理系を問わず広く学生を主な対象者とし、学外におけるさまざまな環境関連施設の見学をとおして環境に関する視野を広げる機会を提供することを目的として、毎年開催している。7回目となる今回は、神戸市内から集められた容器包装プラスチックを選別・梱包し、再資源化事業者に搬出している大栄環境(株)六甲リサイクルセンターを見学した。

ここに搬入された容器包装プラスチックは、神戸市の指定袋から取り出されたのち、異物を除去しつつ、選別される。容器包装プラスチックと聞くと、パンやスナック菓子の袋、ペットボトルのラベルフィルムやキャップ、ラミネートフィルムなどが想起され、各家庭ではこれらを指定袋に選り分けて収集に出しているものと想像していた。ところがここに集められた指定袋の中には、折れたビニール傘や割れたバケツ、さらに金属製の茶筒など、予想外のものが多く含まれていることに驚かされた。とりわけリチウムイオンバッテリーは、プラスチックカバーで覆われていることからしばしば混入する対象外品であるが、処理の過程で発火することがあるため、注意深く除去することが必要とのことであった。こうして、異物を除去された容器包装プラスチックは梱包され、物流パレットの原料として、また RDF と呼ばれる固形燃料としてリサイクルされるために出荷される。こうした異物除去と選別の作業現場を、間近に見学することができた。また学生も気後れせずに質問でき、学びの多い見学会となった。見学を受け入れくださり、多くの質問に丁寧にお答えくださった清水様、松本様、六路木様、桑田様、関係者の皆さまに深くお礼申し上げます。



異物除去の説明を聞く参加者



作業場のようす

環境報告書の編集方針

環境企画部門長 高橋 一志

各国立大学法人および独立行政法人、その他法人は「環境配慮促進法」第九条により、環境報告書の作成と公表が求められている。環境省の URL から、各法人が毎年度公表する「環境報告書」を閲覧できる¹⁾。本学では2006年9月に2005年度を対象とした環境報告書2006を公開して以降、毎年、環境報告書を公表している²⁾。環境報告書記載内容は、環境省が URL にて公表している「環境報告ガイドライン2018年版」に沿うものである³⁾。本学の環境報告書2025では、以下のような項目について、本学での取り組みを報告している⁴⁾。

- ・環境保全活動について本学の基本理念や基本方針が書かれた環境憲章
- ・本学の環境保全のための組織体制
- ・「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、カーボンニュートラルの実現に向けての取り組み
- ・本学での環境配慮、環境保全、環境改善に関する活動の実績

地球規模で起こる気候変動を抑制する取り組みとして、CO₂排出削減に係る実質的な取り組みの強化が求められている。我が国でも、「2050年ネット・ゼロの実現に向けた直線的な経路にある野心的な目標として、2035年度、2040年度において、温室効果ガスを2013年度からそれぞれ60%、73%削減することを目指す」地球温暖化対策計画が2025年2月18日の閣議決定されたことも後押しとなり、脱炭素化社会の実現を実質的に進める機運が高まっている。神戸大学は、電気やガス使用量、廃棄物や廃液の削減を実現し、地球環境保全に貢献する取り組みを継続している。このような取り組みに係る本学の電気使用量等実績値は、環境報告書2025「神戸大学の環境パフォーマンス」(21-36ページ)に記載している⁴⁾。

神戸大学環境報告書には、上述した項目に加え、教員や学生、附属中等教育学校単位で取り組んでいる「環境に関する教育研究とトピックス」について紹介する欄(8-20ページ)を設けている⁴⁾。カーボンニュートラルや省エネルギー等に向けた効果的な活動を行うには、関連する社会科学や自然科学の分野、それらの融合した環境科学における研究促進のみならず学校教育現場における啓発活動が不可欠である。このような取り組みが組織内で行える神戸大学の強みを生かした環境保全活動の成果の公表も、環境報告書が担っている。

1) https://www.env.go.jp/policy/hairyō_law/post_160.html

2) <https://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/environment/environmental.html>

3) <http://www.env.go.jp/policy/2018.html>

4) <https://www.kobe-u.ac.jp/report/environmental/2025/index.html> (以上、2026年2月14日閲覧)

全学共通授業科目「環境学入門 A」および「環境学入門 B」

副センター長 堀家 匠平

「環境学入門 A・B」は全学共通授業科目として例年開講している。第3クォーター開講の「環境学入門 A」では主に理工学分野に関する内容、第4クォーター開講の「環境学入門 B」では主に人文社会分野に関する内容を講義している。2025年度の受講者数は「環境学入門 A」で102名、「環境学入門 B」で58名であった。

今後とも、広範な分野に展開する環境学を初学者に紹介する講義内容をさらに充実させていきたいと考えている。

環境学入門 A

回	実施日	内容	担当
1	10/7	イントロダクション	堀家匠平 副センター長
2	10/14	環境と資源・エネルギー	堀家匠平 副センター長
3	10/21	環境と生態系	丑丸敦史 (人間発達環境)
4	10/28	環境と気候変動対策	神尾英治 (膜)
5	11/4	環境とごみ	吉村知里 (環境保全推進センター)
6	11/11	環境と災害	金崎真聡 (海事)
7	11/18	環境と人体	堀江修 (神戸常磐大学)
8	11/25	全体総括および最終試験	堀家匠平 副センター長

環境学入門 B

回	実施日	内容	担当
1	12/9	イントロダクション	堀家匠平 副センター長
2	12/16	サーキュラーエコノミーをどうデザインするか	小島理沙 (経済)
3	12/23	神戸大学の環境対応	吉村知里 (環境保全推進センター)
4	1/6	環境問題とシステム思考	祇園景子 (医/バリュースクール)
5	1/13	脱炭素社会に向けた産官学の取り組み	田畑智博 (人間発達環境)
6	1/20	環境と社会制度	牧秀志 (工)
7	1/27	企業における環境対応	小野孝志 (環境企画コーディネーター)
8	2/3	全体総括および最終試験	堀家匠平 副センター長

「環境分析化学」の講義について

副センター長 堀家 匠平

「環境分析化学」は、工学部からの依頼により、工学部応用化学科 3 年生対象の選択必修科目として開講している。環境や分析化学に関する知識の習得に熱意のある学生が受講しており、出席率は高い。

本講義の目的のひとつは、環境問題の歴史と現状、それらの原因について化学的に学び、理解することである。我が国の環境問題の原点の一つである熊本水俣病や新潟水俣病、イタイタイ病、四日市ぜんそくをはじめとする幾多の公害病から、地球温暖化問題やマイクロプラスチック問題など近年のグローバル型環境問題まで、化学という学問領域から環境問題を理解する講義となっている。また、大気、水質、エネルギー問題の解決に関する近年の取り組みや最新のエネルギー・脱炭素技術のほか、さまざまな分析手法について原理とともに紹介し、応用化学科の学生として、将来どのように環境保全に貢献できるかを考える機会となる講義を行っている。

2025 年度講義の概要（堀家副センター長担当分）

回	実施日	内容
1	7/7	環境汚染と公害の歴史
2	7/9	近年の地球環境問題 1
3	7/14	近年の地球環境問題 2
4	7/16	環境と資源・エネルギー
5	7/23	定期試験
6	7/28	半導体物性
7	7/30	発電デバイス（太陽電池など）
8	8/4	定期試験

当センターの主な学界活動

(下線は環境保全推進センター専任教職員を、○印は講演者を示す)

学術論文

1. 小柴康子, 厚見智志, 秋山吾篤, 堀家匠平, 舟橋正浩, 石田謙司, 時間分解FT-IRで観測した1秒以内で進行するポリ尿素重合と水素結合形成プロセス, 電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 (in press)
2. 堀家匠平, カーボンナノチューブ熱電材料のドーピング, 高分子 2026年1月号
3. Yasuko Koshiba, Satoshi Atsumi, Tatsuya Fukushima, Shohei Horike, Kenji Ishida, In situ observation of polyurea formation by rapid-scan time-resolved infrared spectroscopy, *Physical Chemistry Chemical Physics*, **27**, 2024, 21871-21877 (Front Cover 選出)
4. Mayuko Nishinaka, Yasuko Koshiba, Azumi Akiyama, Masahiro Funahashi, Shohei Horike, Electrolyte-Based One-Shot Potential Application with Crosslinked Superbase Cation for Thermally Stable n-Type Carbon Nanotubes with Tunable Thermoelectric Properties, *Advanced Sustainable Systems*, **9**, 2025, e00698 (Front Cover 選出)
5. Masahiro Funahashi, Yasuko Koshiba, Shohei Horike, Shinobu Uemura, Room-temperature bulk photovoltaic effect in a terthiophene-based ferroelectric liquid crystal bearing dilactate side chains, *Science and Technology of Advanced Materials*, **26**, 2025, 2525058
6. Shohei Horike, Teruo Ebihara, Ryoko Nakae, Masakazu Mukaida, Yasuko Koshiba, Masahiro Funahashi, Qingshuo Wei, Thermally chargeable supercapacitor modules with heat transporting systems for powering wireless sensors by natural heat dissipation, *Chemical Engineering Journal*, **516**, 2025, 164119
7. Qingshuo Wei, Shohei Horike, Advances in Organic Thermoelectric Materials: From Molecular Design to Device Implementation, *Information and Functional Materials*, **2**, 2025, 105-117 (総説論文)
8. Kaho Kawasaki, Mayuko Nishinaka, Yasuko Koshiba, Azumi Akiyama, Qingshuo Wei, Masahiro Funahashi, Shohei Horike, Enhancing thermal stability of n-type conduction in carbon nanotubes via cation replacement mediated by bicyclic guanidinium salts, *Journal of Materials Chemistry C*, **13**, 2025, 13664-13671 (Front Cover 選出)
9. Kaho Kawasaki, Mayuko Nishinaka, Yasuko Koshiba, Qingshuo Wei, Shohei Horike, Masahiro Funahashi, Kenji Ishida, Anomalous Intensity Reduction and Blueshift in the Raman Scattering Spectrum of Hole-Doped Soft-Anion-Coordinated Carbon Nanotubes, *The Journal of Physical Chemistry C*, **129**, 2025, 11155-11163
10. Shohei Horike, Ikuyo Harada, Daiki Takahashi, Yasuko Koshiba, Kenji Ishida, Phase transition diagrams of ionic liquids with liquid/gas phase boundaries, *Bulletin of the Chemical Society of Japan*, **98**, 2025, uoaf039 (優秀論文選出)
11. Yuki Chiyonobu, Yasuko Koshiba, Kana Tomosada, Takuya Matsumoto, Shohei Horike, Takashi Nishino, Kenji Ishida, Masahiro Funahashi, Preparation of thin films with densely aggregated zinc phthalocyanine nanowires oriented uniaxially on friction-transferred polytetrafluoroethylene template, *Discover Polymers*, **2**, 2025, 8

12. Yuichi Ichihashi, Kazuki Shishida, Kaito Oishi, Daisuke Nishikawa, *Catalysis Today*, **461**, 2026, 115530

学会発表(国際会議)

1. Shohei Horike, Yasuko Koshiba, Azumi Akiyama, Kenji Ishida, Masahiro Funahashi, Qingshuo Wei, Development of thermally chargeable supercapacitor modules and their applications to powering IoT sensors, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem 2025), 2025, 12/20, Honolulu (招待講演)
2. Shohei Horike, Thermally chargeable supercapacitor: From material exploration to device engineering, 2nd International Workshop on Thermo-electrochemical Devices (IWTED 2025), 2025, 12/15, Tokyo (Keynote Lecture)
3. Masahiro Funahashi, Yasuko Koshiba, Azumi Akiyama, Shohei Horike, Taiyo Sugihara, Shinobu Uemura, Bulk photovoltaic effect in π -conjugated ferroelectric liquid crystals bearing lactate moieties, OLC 2025 (Optics of Liquid Crystals Conference 2025), 2025, September, Taiwan
4. Yasuko Koshiba, Sakura Suga, Azumi Akiyama, Shohei Horike, Masahiro Funahashi, Kenji Ishida, Structural Control of Polyvinylidene Fluoride Thin Films Using High-Boiling-Point Amphiphilic Solvent for Ferroelectric Phase Formation, KJF-ICOMEF 2025, 8/28, Osaka
5. Yasuko Koshiba, Kenta Higashida, Azumi Akiyama, Shohei Horike, Kenji Ishida, Masahiro Funahashi, Fabrication and Characterization of Vacuum-Deposited Zinc Phthalocyanine Nanorods, International Conference on Organized Molecular Films (ICOMF19/LB19), 2025, July, Tokyo
6. Kazuhiko Seki, Shohei Horike, Vikas Nandal, Qingshuo Wei, Grahame equation to study ionic thermoelectric supercapacitors, 18th Joint European Thermodynamics Conference, 2025, May, Serbia

学会発表(国内会議)

1. 〇千代延祐希, 小柴康子, 秋山吾篤, 堀家匠平, 舟橋正浩, ヘキサデカフルオロ亜鉛フタロシアニン薄膜の一軸配向制御と結晶成長メカニズムの検討, 第 73 回応用物理学会春季学術講演会 2026 年 3 月, 東京科学大学
2. 〇栗脇 賢, 衛 慶碩, 小柴 康子, 秋山 吾篤, 舟橋 正浩, 堀家 匠平, 温度変化からの環境発電を志向したマルチレドックスシステムの構築, 第 73 回応用物理学会春季学術講演会 2026 年 3 月, 東京科学大学
3. 堀家匠平, 衛慶碩, プリント基板を利用したカーボンナノチューブ熱電発電素子の構築, 第 73 回応用物理学会春季学術講演会 2026 年 3 月, 東京科学大学
4. 〇舟橋 正浩, 秋山 吾篤, 小柴 康子, 堀家 匠平, 上村 忍, 拡張 π 共役強誘電性液晶の分極誘起電界発光における偏光面の回転, 日本化学会 第 106 春季年会 2026 年 3 月, 東京理科大学
5. 〇小柴康子, 厚見智志, 秋山吾篤, 堀家匠平, 舟橋正浩, 石田謙司, 時間分解 FT-IR で観測した 1 秒以内で進行するポリ尿素重合と水素結合形成プロセス, 有機エレクトロニクス研究会(電子情報通信学会) 2026 年 1 月 26 日, 富山大学
6. 〇杉原大耀, 田原圭志朗, 小柴康子, 秋山吾篤, 堀家匠平, 舟橋正浩, バルク光起電力を示す強誘電性液晶におけるフルオロ基の置換位置の効果, 第 33 回有機結晶シンポジウム 2025 年 11 月
7. 〇舟橋正浩, 小柴康子, 秋山吾篤, 堀家匠平, 上村忍, 拡張 π 共役強誘電性液晶の側鎖の

- 立体構造が分子凝集構造、および、電子物性へ及ぼす影響, 第 33 回有機結晶シンポジウム 2025 年 11 月
8. ○千代延祐希, 小柴康子, 秋山吾篤, 堀家匠平, 石田謙司, 舟橋正浩, 高密度に一軸配向した亜鉛フタロシアニンナノワイヤの作製と構造・電気伝導性評価, 第 33 回有機結晶シンポジウム 2025 年 11 月 1 日
 9. ○西村大樹, 堀家匠平, 秋山吾篤, 小柴康子, 舟橋 正浩, 拡張 π 共役強誘電性液晶における電気伝導状態のスイッチング挙動, 第 33 回有機結晶シンポジウム 2025 年 11 月 1 日
 10. ○堀家匠平, 有機熱電材料・デバイスの研究開発, 電子情報技術産業協会 スマートセンシングとその社会実装技術分科会 研究会 2025 年 10 月 21 日, オンライン (招待講演)
 11. ○栗脇 賢, 衛慶碩, 小柴 康子, 秋山 吾篤, 舟橋 正浩, 堀家 匠平, 温度変化からのエナジーハーベスティングを可能とするマルチレドックスシステムの構築, 第 86 回応用物理学会秋季学術講演会 2025 年 9 月 9 日, 名城大学
 12. ○千代延祐希, 小柴 康子, 秋山 吾篤, 堀家 匠平, 石田 謙司, 舟橋 正浩, 亜鉛フタロシアニンナノワイヤの一軸配向制御とドーピングによる物性への影響, 第 86 回応用物理学会秋季学術講演会 2025 年 9 月 8 日, 名城大学
 13. ○肥田 和眞, 小柴 康子, 秋山 吾篤, 斎藤 毅, 舟橋 正浩, 堀家 匠平, 直径制御された単層カーボンナノチューブの熱電変換特性と不純物の除去効果, 第 86 回応用物理学会秋季学術講演会 2025 年 9 月 7 日, 名城大学
 14. ○西村 大樹, 堀家 匠平, 秋山 吾篤, 小柴 康子, 舟橋 正浩, 拡張 π 共役強誘電性液晶における電気伝導状態の双安定性及び電界発光, 2025 年 日本液晶学会討論会 2025 年 9 月
 15. ○舟橋正浩, 秋山吾篤, 堀家匠平, 小柴康子, 乳酸ダイマー部位を導入したオリゴチオフェン誘導体の液晶相と電子機能, 2025 年 日本液晶学会討論会 2025 年 9 月
 16. ○秋山 吾篤, 小倉 淑希, 小柴 康子, 堀家 匠平, 舟橋 正浩, 岸川 圭希, 側鎖工学による水素結合性尿素分子集合体の積層・極性制御, 第 74 回高分子討論会 2025 年 9 月
 17. ○舟橋正浩, 秋山吾篤, 堀家匠平, 小柴康子, 拡張 π 共役強誘電性液晶のバルク光起電力効果と分極誘起電界発光, 第 74 回高分子討論会 2025 年 9 月
 18. ○小柴 康子, 菅 咲来, 秋山 吾篤, 堀家 匠平, 舟橋 正浩, 石田 謙司, ポリフッ化ビニリデン薄膜の強誘電相への構造制御: 高沸点両親媒性溶媒の効果, 第 74 回高分子討論会 2025 年 9 月
 19. ○千代延祐希, 小柴康子, 秋山吾篤, 堀家匠平, 石田謙司, 舟橋正浩, 亜鉛フタロシアニンナノワイヤの一軸配向制御と構造・電気特性評価, 第 71 回高分子研究発表会 (神戸) 2025 年 7 月 17 日, 神戸
 20. ○栗脇 賢, 衛 慶, 小柴康子, 秋山吾篤, 舟橋正浩, 堀家匠平, 温度変化で発電可能なマルチレドックスシステムの創出, 第 71 回高分子研究発表会 (神戸) 2025 年 7 月 17 日, 神戸
 21. ○西川大介, 受賞講演 「神戸大学における廃棄物管理と排水管理への取り組み」大学等環境安全協議会第 43 回総会・研修発表会
 22. ○富安卓滋, 石橋康弘, 吉識肇, 藤井邦彦, 布浦鉄兵, 西川大介 廃棄物 WG 活動報告 大学等環境安全協議会第 43 回総会・研修発表会
 23. ○吉村知里, 「リサイクル文化から国の価値観が見えてくる、世界のごみ箱」廃棄物資源循環学会・市民部会サロン・ド・ごみ, 招待講演 2026 年 1 月
 24. ○吉村知里, 水質汚濁防止法説明会, 茨城大学, 招待講演 2026 年 3 月

共同研究等

1. JST A-STEP（育成型）「IoT センサ用の超軽量・長寿命有機熱電変換モジュールの開発」：堀家 匠平（研究代表者）
2. NEDO 未踏チャレンジ 2050「昇圧回路不要の熱電発電デバイス」：堀家 匠平（研究代表者）
3. 戸部眞紀財団研究助成「カーボンナノチューブの二酸化炭素吸蔵効果に関する研究」：堀家 匠平（研究代表者）
4. JST 共創の場形成支援プログラム「ナノコーティングが再生する環境未来都市共創拠点」：堀家 匠平（研究分担者）
5. NEDO 官民による若手研究者発掘支援事業（若サポ）「白金・パラジウム不要の高感度水素ガスセンサ」：堀家 匠平（研究代表者）
6. 天野工業技術研究所 研究助成「有機熱電材料用の新規 n 型ドーピング剤の開発」：堀家 匠平（研究代表者）
7. 川西記念新明和教育財団 研究助成「n 型カーボンナノチューブにおける錯体化学と安定化技術」：堀家 匠平（研究代表者）

著書

1. 堀家匠平, カーボンナノチューブを用いた熱電発電モジュールの開発と IoT 用電源への応用, 日本工業出版社『クリーンテクノロジー』 2026 年
2. 堀家匠平, 衛慶碩, 熱電変換機能を備えたスーパーキャパシタの開発, 技術情報協会『熱、排熱利用に向けた 材料・熱変換技術の開発と活用事例』 2025 年
3. 西中菜佑子, 堀家匠平, 熱電発電応用を志向したカーボンナノチューブの電気化学ドーピング, エヌ・ティー・エス『サーマルマネジメントの最新技術』 2025 年
4. 河崎佳保, 堀家匠平, 錯体化学の概念を駆使したカーボンナノチューブの p 型ドーピング, シーエムシー出版『カーボンナノチューブの研究開発と応用』 2025 年

受賞

1. 堀家 匠平, 神戸大学 令和 7 年度学長表彰, 10 月
2. 西川大介, 大学等環境安全協議会 2025 年度技術賞

2025 年度センター活動報告

- 4 月 廃液・排水管理についての出張講義
(理学部、農学部、工学部、大学教育推進機構、新任教職員研修)
薬品類廃液・廃棄物回収 (六甲・鶴甲、楠、名谷、ポートアイランド地区)
排水管理報告書提出 (神戸市)
- 5 月 中和・曝気槽保守点検第 1 回
廃液・排水管理についての出張講義 (医学部)
- 6 月 薬品類廃液・廃棄物回収 (六甲・鶴甲、楠、ポートアイランド地区)
PRTR 制度による排出量・移動量調査届出 (神戸市)
環境キャラバン (六甲台 1)
- 7 月 中和・曝気槽保守点検第 2 回
第 1 回環境企画・評価専門委員会 (持ち回り)
第 1 回エネルギー専門委員会 (持ち回り)
第 1 回環境保全推進センター運営委員会 (持ち回り)
省エネ法における定期報告書および中長期計画書の提出
第 43 回大学等環境安全協議会総会・研修発表会参加
環境キャラバン (六甲台 1、名谷)
- 8 月 薬品類廃液・廃棄物回収 (六甲・鶴甲、深江、楠、名谷、ポートアイランド地区)
環境キャラバン (六甲台 2、深江)
- 9 月 環境報告書 2024 発行
中和・曝気槽保守点検第 3 回
- 10 月 廃液・排水管理についての出張講義 (農学部、工学部、大学教育推進機構)
薬品類廃液・廃棄物回収 (六甲・鶴甲、楠、加西、ポートアイランド地区)
環境学入門 A (総合教養科目 (グローバルイシュー))
第 41 回大学等環境安全協議会技術分科会参加
環境改善キャラバン (深江)
- 11 月 環境保全推進センター シンポジウム 2025 開催
中和・曝気槽保守点検第 4 回
環境学入門 A (総合教養科目 (グローバルイシュー))
環境改善キャラバン (六甲台 1、楠)

- 12月 薬品類廃液・廃棄物回収
(六甲・鶴甲、楠、ポートアイランド地区、附属住吉校)
eco 活動見学会 2025
環境学入門 B (総合教養科目 (グローバルイシュー))
第2回環境保全推進センター運営委員会 (持ち回り)
環境改善キャラバン (六甲台1、2、名谷)
- 1月 薬品類廃液・廃棄物回収 (六甲・鶴甲、深江、楠、ポートアイランド地区)
中和・曝気槽保守点検第5回
環境学入門 B (総合教養科目 (グローバルイシュー))
第2回環境企画・評価専門委員会 (持ち回り)
第2回エネルギー専門委員会
第3回環境保全推進センター運営委員会 (持ち回り)
- 3月 中和・曝気槽保守点検第6回
第3回環境企画・評価専門委員会 (持ち回り)

大学等環境安全協議会参加報告

助教 吉村知里

第 43 回大学等環境安全協議会総会・研修発表会参加

【日時】 2025 年 7 月 17-18 日 研修発表会、総会

【場所】 名古屋大学 東山キャンパス 豊田講堂

名古屋大学にて開催された第 43 回大学等環境安全協議会総会・研修発表会に参加した。特別講演では「災害による心の危機への心理社会的支援：支援者のあり方」について名古屋大学大学院 小塚 貴博 教授による、災害時の心理社会的支援に関する主要な知見と実績についての報告、被災者にもたらされる心の危機と回復の要因について講演があった。また、特別企画として「大学等教育研究機関のサステナビリティー 環境安全の視点から」東京大学の辻 佳子 教授による教育研究活動現場の特徴について講演があり、研究推進と安全性の確保と感染対策と環境配慮（カーボンニュートラル施策を含む）の 4 つすべてがバランスしていることが重要とのことだった。

ポスターセッションでは企業の多様な分析機器の紹介もあった。また、当センターの技術専門職員 西川 大介が技術賞を受賞し受賞講演をした。

研修発表会では廃棄物 WG の活動報告やプロジェクト報告、他大学の廃液廃棄物の取組みについて発表者と会場の意見や質疑応答が活発に行われた。

大学等環境安全協議会参加報告

技術専門職員 西川 大介

第41回大学等環境安全協議会技術分科会が10月大阪大学にて開催され、これに参加した。実務者連絡会企画「環境安全業務のDX化と今後の課題」では、Microsoft365や独自のソフトウェアを用いた業務効率化の事例紹介が行われた。各大学で廃棄物回収等に対する業務に課題があり、それらの解決手段が報告され、大変勉強になった。

また、この分科会に併せて企画された実務者連絡会の企画で大阪広域環境施設組合舞洲工場（一般ごみ焼却施設）と、JESCO大阪事業所（PCB廃棄物処理施設）の見学会にも参加した。本学でも一般ごみやPCB廃棄物は排出されており、これらの適切な処理方法や課題について、学べる良い機会であった。



写真左：舞洲工場見学会



写真右：JESCO 処理プラント

大学等環境安全協議会第18回実務者連絡会技術研修会「廃棄物の教育方法と運用ルール」が3月琉球大学において開催され、これにも参加した。こちらでは、各大学の具体的な事例報告やアンケート結果の共有、情報交換が行われた。現地参加に加え、オンラインでの視聴も可能なハイブリッド形式で実施され、部門ごとに分かれたグループディスカッションでは、日常業務における課題等について活発な意見交換が行われた。初日は各大学の担当者による講演や各大学の廃液管理講習会等のテキスト閲覧会、2日目には琉球大学キャンパス内の排水管理施設見学が実施された。

各大学の廃棄物管理の事例紹介では、オンライン化、e-learningの導入、多言語化、電子媒体の活用が勧められていることが確認された。廃液の分類や回収方法の変更が行われている事例が紹介されており、こちらを今後の業務の参考にしていきたい。また、廃掃法改正に伴う各大学の動向も確認することができたため、本学の対応にも活かしていきたい。

令和7年度 環境保全推進センター各種委員名簿

選 出 部 局 等	運営委員 環境保全推進員	排水管理責任者	技術指導員
大学教育推進機構	石村 理知	石村 理知	石村 理知
バリュースクール	鶴田 宏樹	-	-
人文学研究科	菊地 真	-	-
国際文化学研究科	ADEBAHR DAVID PAUL RAMON	-	-
人間発達環境学研究科	谷 篤史	谷 篤史	谷 篤史
法学研究科	飯田 文雄	-	-
経済学研究科	阪本 浩章	-	-
経営学研究科	與三野 禎倫	-	-
理学研究科 (分子フォトサイエンス研究センターを含む) (内海城環境教育研究センター)	松原 亮介	松原 亮介	古家 圭人
		大沼 亮	-
医学研究科	篠原 正和	篠原 正和	仲山 桃代
医学部附属病院		大本 暢子	松岡 未樹
保健学研究科	長尾 徹	-	入子 英幸
工学研究科	山田 大地	中本 聡	山田 大地
システム情報学研究科	米田 成	-	-
農学研究科	八木 浩平	嶋川 銀河	小山 竜平
海事科学研究科	高見 朋希	堀田 弘樹	堀田 弘樹
国際協力研究科	高橋 新吾	-	-
科学技術イノベーション研究科	石井 純	木村 哲就	石川 周
経済経営研究所 (社会システムイノベーションセンターを含む)	Ralf Bebenroth (ラルフ ベーベンロート)	-	-
附属図書館	竹下 啓行	-	-
附属中等教育学校(附属学校部を含む)	高木 勝久	-	岩崎 拓也
明石地区附属学校	菅原 里子	-	-
附属特別支援学校	佐藤 知子	-	-
統合研究拠点	白原 洋一	白原 洋一	吉田 崇伸

統合研究拠点 アネックス棟			-
計算科学教育研究センター・神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター	白原 洋一	白原 洋一	-
バイオシグナル総合研究センター	根本 悠宇里	-	辻田 和也
都市安全研究センター	高山 裕介	-	-
海洋底探査センター	高見 朋希	-	-
農学研究科附属食資源教育研究センター	吉田 康子	-	吉田 康子
産官学連携本部	田倉 裕美	-	-
研究基盤センター	柏崎 隼	-	-
インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター	飛松 崇子	-	-
キャリアセンター	井上 善晴	-	-
事務局 (国立大学法人神戸大学学則第18条第1項の規定により設置される室、監査室及び内部統制室を含む。)(国際連携推進機構・キャンパスライフ支援センター・アドミッションセンター含む)	杉本 厚二	-	-
事務局研究推進部 (運営委員のみ)	丸井 とし也	-	-
事務局財務部 (//)	饗場 厚	-	-
事務局施設部 (//)	中村 俊弘	-	-
センター長 (//)	内野 隆司	-	-
副センター長 (//)	堀家 匠平	-	-
環境企画部門長 (//)	高橋 一志	-	-
環境管理部門長 (//)	勝田 知尚	-	-

令和7年度 エネルギー専門委員会委員

委員役職名	所属部局等	職名	氏名
委員長	環境保全推進センター	環境企画部門長	高橋 一志
委員	環境保全推進センター	副センター長	堀家 匠平
委員	施設部	施設部長	中村 俊弘
委員	安全衛生・環境管理統括室	環境企画コーディネーター	小野 孝志
委員	施設部設備課	設備課長	杉本 厚二
委員	医学研究科事務部	施設管理課設備係長	西 政則
委員	工学研究科	准教授	竹林 英樹

令和7年度 環境企画・評価専門委員会名簿

委員役職名	所属部局等	職名	氏名
委員長	環境保全推進センター	環境企画部門長	高橋 一志
委員	環境保全推進センター	副センター長	堀家 匠平
委員	安全衛生・環境管理統括室	環境企画コーディネーター	小野 孝志
委員	経営学研究科	准教授	與三野 禎倫
委員	理学研究科	教授	松原 亮介
委員	国際文化学研究科	准教授	ADEBAHR DAVID PAUL RAMON
委員	人間発達環境学研究科	教授	谷 篤史
委員	医学研究科	教授	篠原 正和
委員	保健学研究科	准教授	長尾 徹
委員	海事科学研究科	准教授	高見 朋希
委員	附属中等教育学校	附属中等教育学校 校長	高木 勝久
委員	工学研究科	教室系技術職員	山田 大地
委員	施設部	施設部長	中村 俊弘
委員	財務部	経理調達課課長補佐	白川 五老

令和7年度 環境管理・教育専門委員会名簿

委員役職名	所属部局等	職名	氏名
委員長	環境保全推進センター	環境管理部門長	勝田 知尚
委員	環境保全推進センター	センター長	内野 隆司
委員	環境保全推進センター	副センター長	堀家 匠平
委員	環境保全推進センター	助教	吉村 知里
委員	環境保全推進センター	技術専門職員	西川 大介

環境保全推進センター スタッフ

センター長（兼務）	内野 隆司（理学研究科・教授）
副センター長（主配置）	堀家 匠平（工学研究科・准教授）
環境企画部門長（兼務）	高橋 一志（理学研究科・准教授）
環境管理部門長（兼務）	勝田 知尚（工学研究科・准教授）
センター員（専任）	吉村 知里（助教）
センター員（専任）	西川 大介（技術専門職員）
センター非常勤職員	井元 亜希子